

当別町における地域公共交通活性化・再生総合事業（計画事業最終年度）

当別町地域公共交通総合連携計画の目標

- ・継続可能なコミュニティバス運行体制の構築
- ・コミュニティバス収支率の改善
- ・公共交通機関利用者の増加
- ・自動車に依存しない地域及び住民の形成
- ・参加事業者及び行政の負担削減
- ・地元企業及び住民による公共交通への主体的関与
- ・地域コミュニティの活性化

22年度総合事業計画の概要

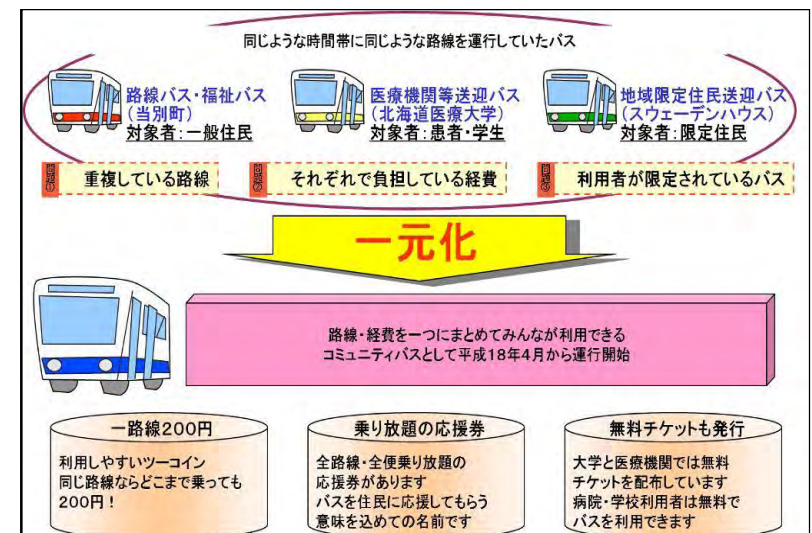
1)当別町コミュニティバスの実証運行

運行期間	: H22.4 ~ H23.3
運行事業者	: (有)下段モータース
通常運行	
運行ルート	: 当別駅南口 ~ 栄町 ~ 春日町 ~ 当別駅南口 (市街地循環線) : 当別駅南口 ~ 北海道医療大学 (金沢線) : 当別駅南口 ~ 北海道医療大学あいの里キャンパス (西当別・あいの里線) : 当別駅南口 ~ 青山会館 (みどり野・青山線)
運行本数	: 平日83便、土休日31便
運賃	: 一律200円
SuSuふれバ	
運行ルート	: 乗車はあいの里公園駅のみ、降車は当別町内のすべてのバス停
運行本数	: 金・土曜日のみ1本運行、20時までに予約
運賃	: 1,000円

当別町地域公共交通活性化協議会開催状況

- 6月11日 第1回協議会を開催
 - ・平成22年度事業計画及び予算変更について
 - ・本格運行向け協議スケジュールについて
- 9月29日 第2回協議会を開催
 - ・本格運行の方向性について
 - 平成22年12月1日付け路線変更及びダイヤ改正について

当別町ふれあいバスの概要



2)バスまつりの開催

日時 平成22年10月9日(土)10時00分
 会場 石狩当別駅前南口駅前駐車場及びふれあい倉庫
 目的 当別ふれあいバスとJR学園都市線を中心とした公共交通の活性化を図るため、公共交通の有用性と環境負荷の低減を周知するとともに、参加者が公共交通への転換を促すよう積極的にバス・JRその他の交通モードを利用するイベントを実施する。



3)小学生向けモビリティマネジメントの実施

実施対象 当別小学校及び西当別小学校の5年生
 目的 当別ふれあいバスを題材とした授業を通してモビリティの差異によって排出された二酸化炭素量に違いがあることを学んでもらい、普段の交通における環境意識が高まるよう働きかける。また、使用済みてんぷら油で精製されたバイオディーゼル燃料を使用している、ふれあいバスの乗車や排気ガスのおい確認などの体験を通して公共交通に親しみをもってもらう。



4)ニュースレターの発行

7・8・9・11・12月と既に5号発行しており、本格運行に向けた協議会や事業者会議の開催状況を報告し、路線・ダイヤ改正の周知を行っている。また、利用促進事業のバスツアーやバスまつりの案内や結果報告、小学生向けモビリティマネジメントや夏休み冬休み子ども定期券販売のお知らせなど住民に広く周知した。

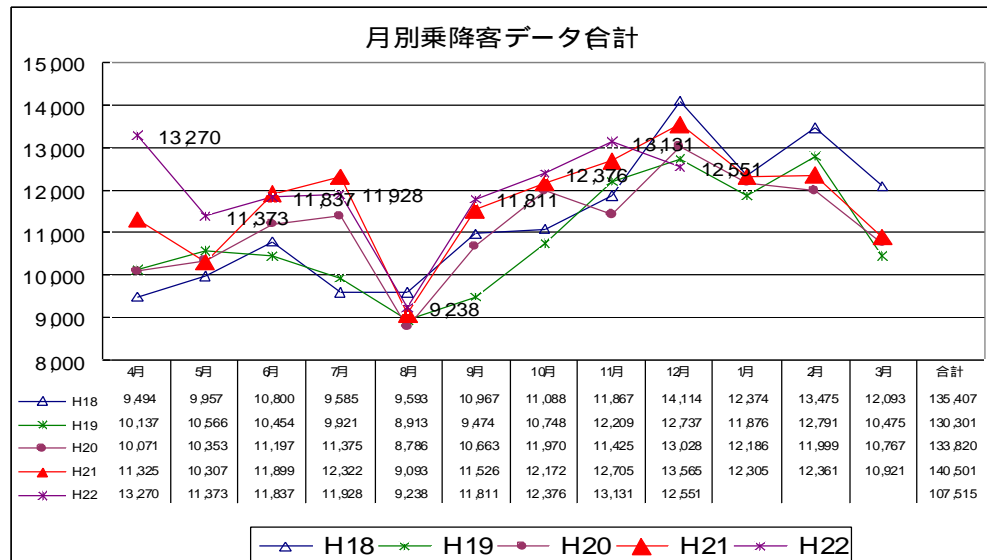


22年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

- ・みどり野・青山線と西当別・あいの里線の乗継時間の改善。
- ・長期休暇限定定期や100円回数券、1日乗車券など割安チケットの販売。
- ・割安チケットと連動させた小中学生向けのモビリティマネジメントの実施。
- ・OD調査を実施し、過去の利用者数と比較を行い、本格運行に向けた路線を検討。
- ・新たなバス利用者を増やすため、利用促進ツアーを開催する。
- ・公共交通に親しみを持ってもらうため、試乗会やパネル展示、クイズ大会などを行うバス祭りの開催。

3) 利用実績



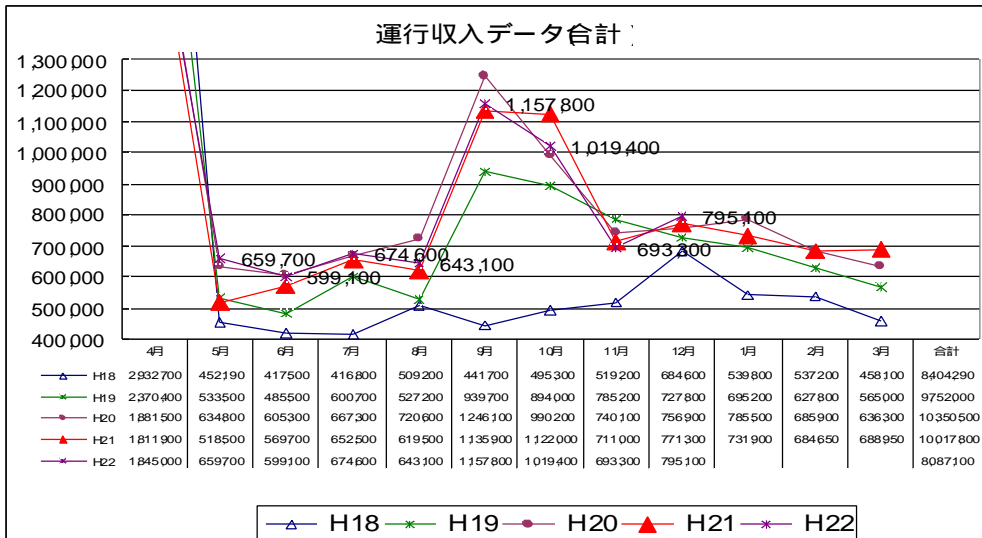
2) 運行ルート



当別町ふれあいバス



4)収入実績



5)事業実施効果

利用者数は昨年若干の減少があったが、ニュースレターやバスまつりの開催など利用促進事業の効果により、今年度増加傾向にある。

運賃収入等については、1日乗車券の販売や回数券の収入増により、昨年度減少していたが、今年度は増加傾向にある。

昨年に続き2回目の開催となるバスまつりは、昨年の約2倍の集客ができ、町民のみならず近隣の市町村からもご参加いただき、多くの方々にふれあいバスの取組と公共交通に親しみと関心を持ってもらえた。

小学生向けMMは、3年目となり学校側も積極的に協力していただけであり、子供たちの反応も大きい。

6)今後の課題

利用促進事業のスタイルは確立できたが、財源確保が困難

学校向けモビリティマネジメントの継続実施

・イベント型利用促進事業「バスまつり」の継続実施

住民に対する定期的な情報提供によるモビリティマネジメント

町内に残る交通空白地帯の解消

・農村地区におけるデマンド型交通実証運行の未実施

・太美地区(市街地)の循環的移動の未確保

・スクールバスと公共交通の統合検討

物流バスとデマンド交通のハイブリッド化

自己評価のポイント

・ふれあいバスについて、採算を考慮して便数を削減して運行し、採算を確保できなかったSui Suiふれバについて廃止するなど適宜見直しを行い、持続性・継続性を追求した。
 ・小中学生向けMMの実施がバス祭り、ニュースレターなど利用促進策により、特に小中学生の利用増につながっている。

二次評価のポイント

・自己評価のとおり。
 ・本格実施にあたり、利用促進策で更なる利用者定着を図るとともに、引き続き自立性・持続性を考慮した取り組みを期待する。